

視察研修・研修会等報告書

議員番号[2] 議員名[桂川 融己]

1 年月日	令和6年8月23日（日数 0泊1日）
2 場所	愛知県日進市
3 視察・研修事項	自動運転バス(DX化、課題 等)
4 面接者	日進市議会議員 吉野ゆうと氏、運転手 等
5 視察研修、研修会の成果	日進市は、名古屋市と豊田市に面する典型的なベッドタウンであり、長久手市などの近隣自治体とともに人口増加都市の1つ。一軒家を建てる方が多く世帯年収も高く、市内には大学が複数あるエリアも存在する。課題は、生徒数が増加し校舎が手狭となっていること等。新規開校は現実的でなく、将来を見据えた対策が必要とのこと。あわせて不登校児童への対応、フリースクールに通う生徒への補助制度なども情報共有いただいた。 不交付団体のため住民税以外の収入を得る方法を模索した取り組み(観光・法人誘致等)に取組中。都市型の道の駅建設プロジェクトや宅地造成などの開発も進んでおり、見学もさせてもらった。自治体が変われば、大きく課題感が異なることを再認識させられた。 令和5年1月より自動運転バスでの日進駅～市役所間の定期運行を開始し、2024年2月に2台目を導入し、高齢化率が高い日進市東山地区の住宅エリアでも運行をしている。産官学による自動運転実装コンソーシアムの6者(日進市、BOLDLY、名鉄バス株式会社、株式会社 セネック、株式会社マクニカ、名城大学)が連携している。車両は、岐阜市と同じARMA社(フランス)で、公道11人乗り。最高時速は時速20キロ設定で事故がないことを最優先に名鉄バスが運行。常に名鉄バスの運転手が乗車し、自動運転と手動を切り替えながら、ゲームのコントローラーのような端末で動かしていた。 定期運行している2ルートの自動運転バスに乗車させてもらった。運転手さんいわく「簡単そうに見えるが、ハンドルがないため車両操作はかなり難しい」とのこと。また「8割ほどは自動運転で走るが完全な自動運転はハードルが高い」とのこと。例えば、夏場は伸びた草がセンサーに反応してしまうこと、右折の判断の難しさ、後続車両を先に行かせるための迂回路の必要性など、課題について乗車中に共有いただいた。午前中の便は、我々が乗車する直前まで定員いっぱいだったとの話もあった。また充電が必要なため、充電ステーションが必要なこと、夏場は構造上車両がかなり暑くなること、エアコン使用により運転時間が短くなることなども教えていただいた。 実際に乗車した際、地域住民の声を聞かせてもらうことができたが利用者の満足度は高い印象を受けた。向き合って乗車するタイプの車両のため、住民同士やドライバーが会話するなど地域住民が交流している場面に触れることもできた。 別件だが、議会には会派ごとの部屋があり、会派が違えば顔を合わせる機会が少なく、若手の飲み会などの場で交流する機会を設けているなど、会派や会派ごとの個室があることの一長一短を感じた。近隣の市町村の若手議員の交流なども行っている、とのこと。